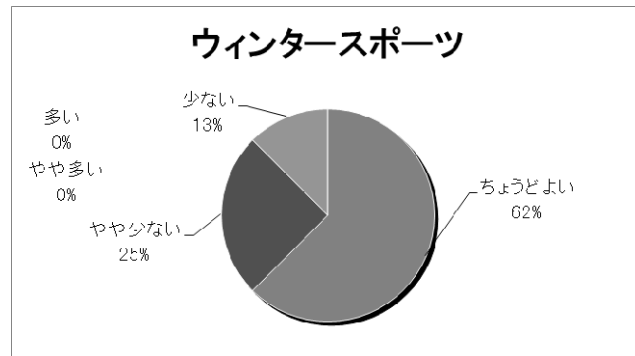
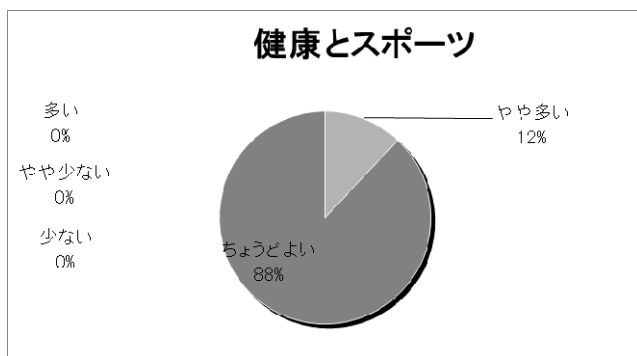
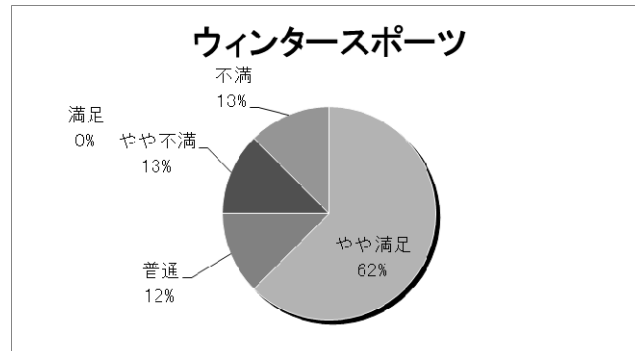
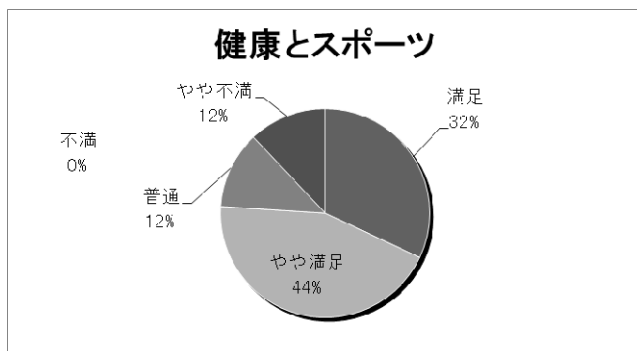


(2)-3 テーマごとの人数について

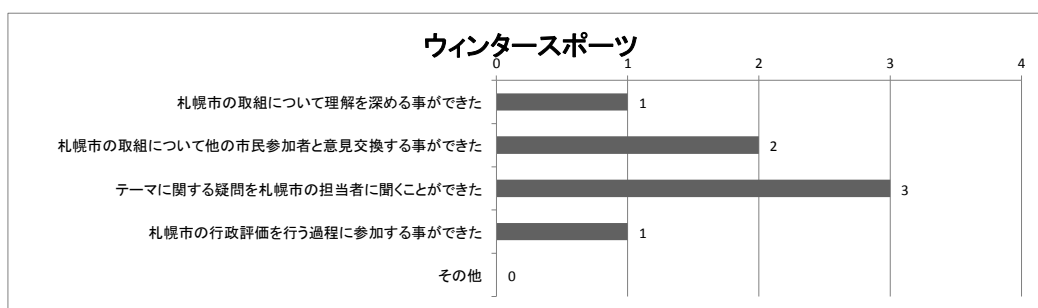
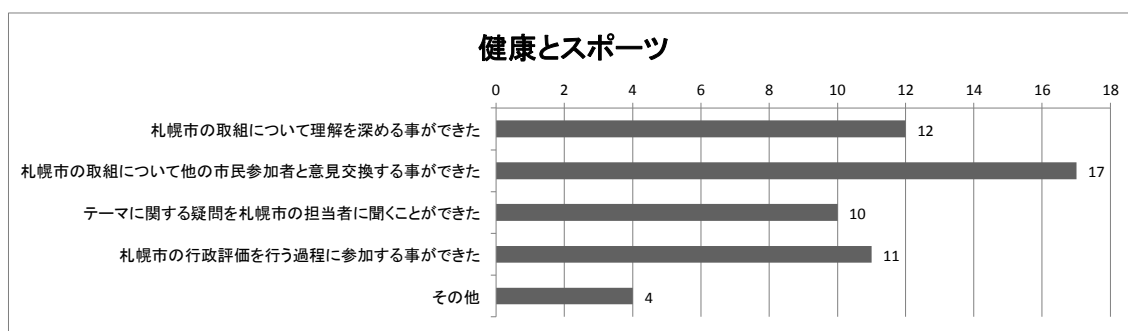


(3) 今回の市民参加ワークショップに参加した満足度について、あてはまるものひとつに○をつけて下さい。



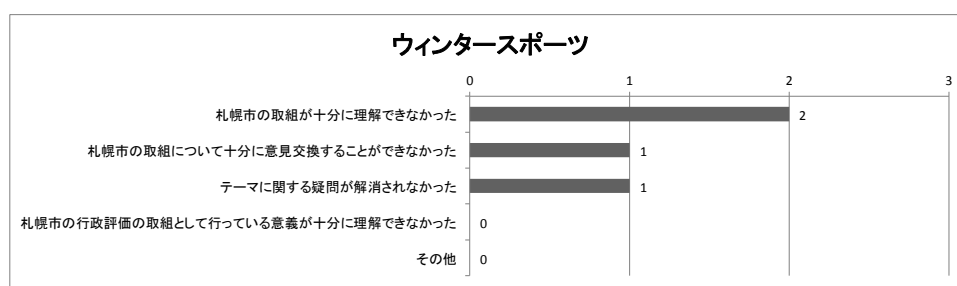
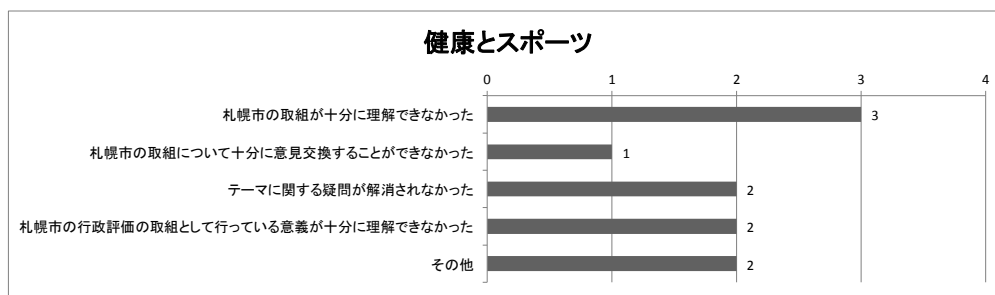
(「満足」または「やや満足」と答えた方にお尋ねします)

どのような点に満足されましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

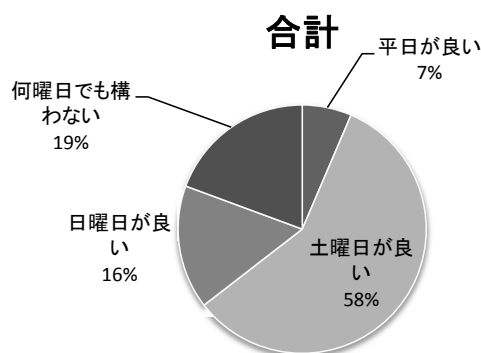


(「やや不満」または「不満」と答えた方にお尋ねします)

どのような点に不満を感じましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。



(4) 今回のワークショップは土曜日または日曜日に開催しました。今後、このような取組にあなたが参加される場合、何曜日の開催が望ま시겠습니까。あてはまるもの一つに○をつけてください。



(5) ワークショップの取組全体を通して、より多くの方にご参加いただけるワークショップにしていくための工夫・アイデアなど、ご意見、ご感想がございましたらお書きください。

- ・ 今回のワークショップで様々な情報や意見を聞くことができ、大変勉強になり、市の取組が身近に感じられました。メンバーは変わっても、各テーマ毎にワークショップを継続させて、具体的に建設的に進めて行ける組織があればと思います。
- ・ 貴重な体験をさせていただきありがとうございました。様々な年代の方の話を聞いたり、札幌市の取組を聞いたり、市民の生活に密接な関係を持つテーマだったので、とても勉強になりました。これからの札幌の健康づくりに少しでも役立てて頂ければと思います。より多くの方々が参加できるようにするためには、回数や機会を増やしてみてもいいと思います。

- ・各位の努力に敬意を表します。これを契機により魅力的まちづくりのために「健康寿命」をテーマに進めて頂くことを切望します。
- ・定年退職後約10年を越え、久しぶりに良い刺激を受けました。今後の人生に役立てて行きたいと思ってます。特に健康寿命のために！！
- ・3回目にてどうにかワークショップの目的が見えてきているので、回数の増が望ましいと感じます。また、この評価がどう動くのか、どう動かすことができるのか、具体的な行動まで関わりたいと強く感じるテーマであった。
- ・半日程度で開催されたが、全日の方が内容的に深まったのではと思われる。ウォーキングを計画的に行っている実状をPR（プラス思考で）することで、本人はむろん医療面でもプラスになると考える。
- ・自分がどのようにして選ばれたのかなど、分かりやすく説明が資料に記載されていて、開催曜日時間帯も参加しやすいものだった。良い機会を頂いて、良かったと思ってます。ありがとうございました。自分としてはもう少し深く考えてみたいと思っているが、これから色々なものに興味を持って参加したいと思う。
- ・課題が広く、焦点が絞りにくかった。グループのまとめ役が素晴らしいと思いました。（ディスカッションの進め方、グループ発表のまとめ方など）
- ・機会があればまた参加したいです。勉強になりました。
- ・いつの間にか「健康づくり」のテーマに？スポーツと健康づくりは違う様な。高齢者向けよりも子育て世代向けの方にウェイトを置かないと、経済効果を思うと無駄の様な。情報提供も程々にしないと、して貰う事が当たり前の人たちが増えるのは社会的問題に歯止めがきかなくなるのでは？生きる力、生き抜く力を養う方が大切の様な。自立できている人へのサポートやメリットが無いと、支える人々もいなければ困っている方はもっと困ってしまいますね。
- ・今回のミーティングがどう活かされ、どう検証して、どんな結果が出たのか、最後まで市民に分かりやすく説明できるように追いかけるべき。とはいえ、自分も家族も真剣に市と自分たち個人の関わりについて考える良いきっかけとなった。でも、やっぱり報告のスピード遅いし、余計な刷り物は要らないと思います。
- ・知らなかった事や気づかされた事がたくさんあり、とても良かったと思います。こういった機会をもっと増やしたら良いと思います。
- ・全体でのフリートークがあっても良いのでは？
- ・ある程度の年代をターゲットにしてウォーキングの推進を図る行政の取組は評価するが、そもそもスポーツ振興を育むためには若いときに習慣づけをしなければ大人になってもやらないと思います。札幌市は住みやすくなりましたが、スポーツの観点から見ると、子どもの遊び場（球技系が行える場所）や学校グラウンドの規制など、また部活動顧問の技術者不足などが若い世代のうちに育てて行かなければならないのが、根本的な課題だと私は思います。（現状は改善しても未来が心配！）
- ・回数を増やす。

- ・年代別にワークショップを開催しては。
- ・地域に依存している行事など町内会の実態が分からないのもっと情報を提供して欲しい。市全体行事（大きなイベント）は意義を市民にも（参加者にも）わかる様、広報して欲しい。
- ・フィードバックに対し、期待しています。
- ・色々な意見が出された事を実行できるように進め、できた事・できなかった事、なぜできなかったのか、できない事はどうしたかを市民に戻す（公表）するようにして欲しい。
- ・ワークショップを開催している事をみんなに知ってもらう様にPRされたらと思います。
- ・事前にもう少し、施策情報の提供があると良かった。
- ・インターネットで公開、参加者はチャット etc. で限定する。
- ・今回は20歳代、30歳の多くの方の意見も聞きたかった。女性の参加も少ないように感じました。参加して良かったと思います。いろんな意見があるのがわかりました。

VI. ワークショップで使った資料

1. 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

スポーツを楽しむ環境づくりと健康づくりの推進について

ワークショップにおける議論のテーマ

「市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり」

ワークショップにおける議論のテーマの選定理由

超高齢社会を迎え、市民が希望や生きがいを持ってすこやかに生活できる社会の実現を目指すためには、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命」を延伸させることが重要です。札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21（第二次）」では、一人ひとりの状態に合わせた適切な運動に取り組む人を増やす（運動習慣のある人の割合の目標値：男性・女性とも38%）、日常生活における歩数を増やす（15歳以上の人の1日あたりの歩数：男性9,000歩、女性8,000歩）、等の取組を行うこととしていいます。

さらに、「札幌市スポーツ推進計画」の中では、スポーツ実施率（成人が週1回以上運動する割合）の目標を平成34年度で65%とし、年齢や性別、障がいの有無を問わず、市民誰もがスポーツに親しめる環境を整え、スポーツを通して市民が、地域が、さっぽろが元気になる「スポーツ元気都市さっぽろ」を目指すこととしています。

市民の皆さんがもっと気軽にスポーツに取り組むことをつうじて健康づくりを進めるために、札幌市の施策の課題や、力を入れて取り組む方向性を市民目線で考えていただくため、ワークショップにおける論点を「市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり」としました。

ワークショップの進め方（予定）

■ 第1回ワークショップ（8月30日（日））

目的：「札幌市の取組を知ろう」

説明／札幌市における行政評価の取組や市民参加ワークショップの位置づけについて

説明／ワークショップの進め方について

説明／テーマに関しての札幌市の取組について

ワークショップ／「質問で理解を深めよう」

質問タイム

■ 第2回ワークショップ（9月12日（土））

目的：「札幌市の取組を市民目線で評価しよう」

ワークショップ／「市民目線から見た現状と課題」

ワークショップ／「市民目線で評価する良い点、問題点」

ワークショップ／「他のグループの話を聞いてみよう」

ワークショップ／「グループ意見を整理してみよう」

■ 第3回ワークショップ（9月26日（土））

目的：「改善の提案などを評価シートにまとめよう」

ワークショップ／「前回のワークショップの振り返り」

ワークショップ／「市民目線で提案する改善点、市民の役割」

ワークショップ／「行政評価シートにまとめよう」

行政評価の結果発表

スポーツを取り巻く札幌市の現状と課題

スポーツ実施率の状況

| 全員に質問(振一選択) | H15(%) | H17(%) | H18(%) | H19(%) | H20(%) | H21(%) | H22(%) | H23(%) | H24(%) | H25(%) | H26(%) |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 週3回以上…① | 11.8 | 12.4 | 11.2 | 12.4 | 14.1 | 15.1 | 14.2 | 16.1 | 19.8 | 17.5 | 20.0 |
| 週1～2回程度…② | 18.9 | 18.1 | 19.3 | 20.7 | 19.1 | 20.1 | 21.3 | 22.4 | 21.4 | 24.6 | 24.9 |
| 月1～3回程度 | 21.6 | 21.8 | 22.9 | 22.8 | 22.0 | 20.6 | 20.1 | 21.3 | 20.4 | 22.0 | 21.3 |
| 月1回未満 | 20.3 | 19.3 | 18.6 | 18.9 | 15.7 | 16.2 | 17.1 | 14.9 | 14.1 | 14.3 | 12.2 |
| 未実施 | 23.5 | 24.6 | 23.5 | 20.9 | 26.5 | 26.5 | 24.0 | 16.3 | 15.2 | 15.0 | 15.2 |
| 無回答 | 3.8 | 3.7 | 2.4 | 3.3 | 2.7 | 2.9 | 3.3 | 9.0 | 9.1 | 6.6 | 5.3 |
| スポーツ実施率(①+②) | 30.7 | 30.5 | 30.5 | 33.1 | 33.2 | 35.2 | 35.5 | 38.5 | 41.2 | 42.1 | 45.0 |

【スポーツ実施率の推移】 <資料> 札幌市指標達成度調査 無作為抽出の成人市民にアンケート 平成16年度は5,000人に郵送、回収数2,002
平成10年度は調査未実施

●平成15年3月に策定した札幌市スポーツ振興計画では、数値目標として、成人のスポーツ実施率50%をできるだけ早期に達成することとしたが、計画終了の平成24年度における数値は41.2%に留まりました。

●成人のスポーツ実施率は微増しており、60代や70代の実施率は高い傾向にありますが、20代から50代にかけての実施率が低減しています。今後は、高齢世代はもちろんのこと、若い世代がスポーツを楽しむことのできる環境を整えていくことが課題と言えます。

スポーツを楽しむためにはきっかけも重要

●スポーツをするために重要だと思うこととして、身近に行える「場所」があること、「お金」がかからないこと、自由に行える「時間」が増加することが上位を占めます。その他にも、一緒に行う「仲間」がいることや、自分にあった「種目」が見つかることなどの回答も多くあります。

●このため、既存のスポーツ施設にとらわれず、より身近な場所で、気軽にスポーツを楽しむことができる機会を提供し、スポーツを行うきっかけをつくっていくことが重要と考えられます。

個人で手軽にできるスポーツへの関心が高い

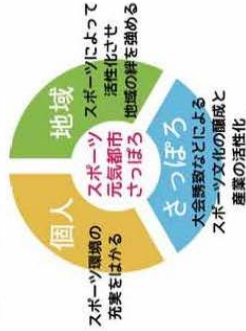
| 男性 | 20代・30代 | 女性 |
|------------|------------|----|
| (MA=88) | (MA=140) | |
| 31% ウォーキング | 48% ウォーキング | |
| 26% サイクリング | 29% キャンプ | |
| 26% キャンプ | 21% サイクリング | |
| (MA=132) | (MA=203) | |
| 41% ウォーキング | 34% ウォーキング | |
| 18% スキー | 19% トレーニング | |
| 17% サイクリング | 17% 体操 | |
| 17% ランニング | | |
| (MA=187) | (MA=212) | |
| 46% ウォーキング | 32% ウォーキング | |
| 18% ランニング | 9% サイクリング | |
| 18% トレーニング | 9% 体操 | |

【年齢層・男女別今後(も)やりたいスポーツ(平成24年度)】
<資料> 札幌市民の運動・スポーツ活動実態調査 無作為抽出の18歳以上の市民3,000人にアンケート郵送、回収数977

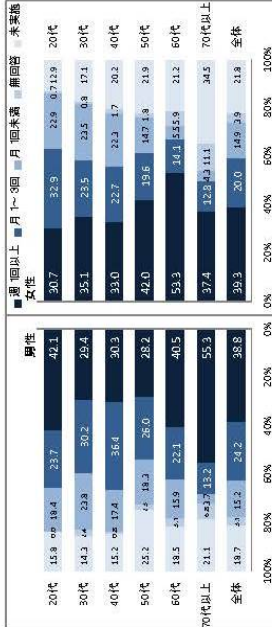
- 今後やってみたい種目については、各年代でウォーキングやランニング、サイクリングといった、個人で気軽にできるスポーツの割合が高くなっています。
- スポーツの実施は、生活習慣病の予防やストレスの解消に効果があります。中高年を中心に、これまであまりスポーツに触れることが少なかった人に対しては、ウォーキングやランニング等の気軽に楽しむことができるスポーツを振興していくことが効果的であると考えられます。

課題のまとめと今後の方向性

●これらの課題をふまえ、今後は従来の「個人」を対象にした施策はもちろんのこと、より大きなコミュニティを対象としてスポーツを推進していきます。

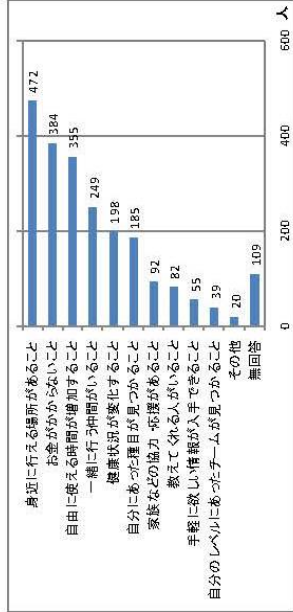


【新しい計画の方向性】



【年齢層・男女別のスポーツ実施率(平成23年度)】

<資料> 札幌市指標達成度調査 無作為抽出の成人の5,000人にアンケート郵送、回収数2,227
注:年齢・性別が未記入の回答を除いているため、上記のスポーツ実施率は異なる結果となります。



【スポーツを実施するために重要だと思うこと(平成24年度)】

<資料> 札幌市民の運動・スポーツ活動実態調査 無作為抽出の18歳以上の市民3,000人にアンケート郵送、回収数977

市民がスポーツに親しむ身近な環境づくりに関する事業について

スポーツ推進委員

- **事業の目的**
地域でのスポーツイベントの企画・運営や実技指導、連絡調整、事業協力等を行うスポーツ推進委員を通して、札幌市のスポーツ振興を図っています。
スポーツ推進委員はスポーツ基本法第 32 条により、本市の非常勤職員として教育委員会から委嘱されています。本市及び各区スポーツ事業への企画・協力をはじめ、各地域、町内会等の住民組織及び地域スポーツ団体と連携し、地域のスポーツイベントの企画・運営や実技指導を行っています。
- 平成 27 年 8 月 19 日現在の札幌市スポーツ推進委員
委嘱者数 257 人
- 主催事業 札幌マラソン (参加者 204 名)
- 協力事業 札幌国際スキーマラソン、ツールト北海道など



札幌マラソンの運営

スポーツ事業促進助成

- **事業の目的**
札幌市スポーツ振興計画にあるスポーツ実施率の向上やスポーツ活動の普及振興を図るために、本市が主催・共催する各種スポーツ大会への補助や、市民のスポーツ活動への支援、市民がスポーツをする場の確保のため、各種補助等を実施しています。
- 各種スポーツ大会への補助金：本市が主催・共催する大会への補助
札幌マラソン、札幌市民体育大会、札幌国際スキーマラソン大会、宮城スキー大会国際競技会など
- 体育協会やスポーツ少年団等への補助金：競技力向上を目的に、体育協会が行う競技力向上事業やスポーツ少年団や市民スポーツチームへの補助
札幌市体育協会、札幌市スポーツ少年団など
- 温水プール子ども無料化事業への補助金：市営プールのない中央区・南区について、民営温水プールへ補助を行うことにより、中学生以下の利用料金の無料化を実施



札幌マラソン

学校開放事業運営

- **事業の目的**
市民の自主的なスポーツ活動を促進して明るく豊かな生活に寄与するため、昭和 42 年から、小中学校の体育施設 (体育館、格技室、グラウンド、プール) を市民に開放しています。学校教育に支障のない範囲で行い、開放は主に平日の夜間と、土日・祝日です。
- 開放形態
・ センター管理方式：開放施設の管理運営を「一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団」へ委託し、各開放校に選任の管理指導員を配置。市民が利用する際には「札幌市公共施設予約情報システム」により申し込み。
 - ・ 自主管理方式：地域住民により組織された「体育振興会」に委ね、学校を地域スポーツの拠点として活用。
 - ・ PTA 管理方式：小学校のプールを幼児・小学生に開放しており、管理運営については PTA に委託 (7~8 月のみ)。
- 平成 26 年度利用実績
開放校数 293 校 利用人数 1,321,874 人



学校開放の様子

オリンピックアンバサダーボランティア事業

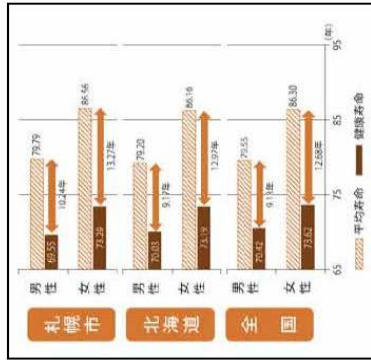
- **事業の目的**
町内会や体育振興会等が主催する地域のスポーツイベントに、地域コミュニティ活性化や地域におけるスポーツの普及振興を図ることを目的に、イベントのゲストティチャーとしてオリンピック選手等のトップアスリートを派遣します。
申込団体が企画・運営を行うことを基本とし、広く地域から参加者を募るイベント (スポーツ体験会、講演会等) に対して、派遣に係る講師への謝礼・交通費等を助成します。



トップアスリートを迎えたスポーツイベント

健康づくりに関する札幌市の現状と課題

札幌市民の健康寿命



【平均寿命と健康寿命の差】<資料>健康さっぽろ21(第二次)

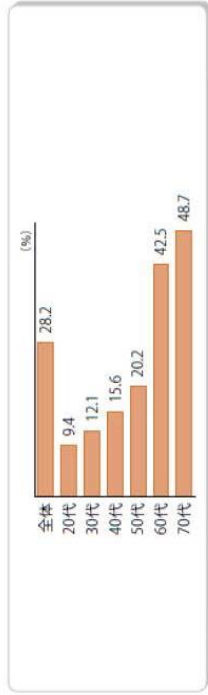
札幌市・厚生労働省「国勢調査」「人口動態統計」「国民生活基礎調査」、厚生労働科学「健康寿命研究」
北海道・北海道健康増進計画、すこやか親子21
全国・健康日本21(第二次)

- 健康寿命とは健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。
- 平均寿命と健康寿命との差が短いほど、個人の生活の質が高く保たれているとされています。
- 札幌市は全国と比較すると、男性では1.11年、女性では0.59年、平均寿命と健康寿命との差が長くなっています。

札幌市の健康寿命(平成22年)
男性 69.55年
女性 73.29年
平均寿命との差
男性 9.13年
女性 12.68年

若い世代、働く世代の運動習慣

- 日頃から意識的に運動している人の割合は全国と比べて低く、15歳以上の女性の1日あたりの歩数は減少しています。運動の必要性について意識を高め、日常生活における歩数を増やすなど、運動習慣を身につけることが重要です。
- 20歳代で運動習慣のある成人の割合が低く、若い年代のうちから健全な運動習慣を身につけ、心身の健康の保持・増進や体力の向上を目指すことが求められています。



【運動習慣のある成人】

<資料>健康さっぽろ21 最終評価報告書

【健康さっぽろ21】の最終評価(H24年度)

- 最終年度において目標値を達成した指標はありませんでした。

| 指標 | 現状値 | 目標値 | 達成状況 | |
|------------------------|-----|--------|--------|---|
| 積極的に運動している人(15歳以上) | 男性 | 50.5% | 48.7% | △ |
| | 女性 | 48.8% | 47.7% | ○ |
| 運動習慣のある成人 | 男性 | 26.6% | 28.1% | ○ |
| | 女性 | 28.2% | 28.4% | ○ |
| 1日あたりの歩数(15歳以上) | 男性 | 7,282歩 | 7,894歩 | ○ |
| | 女性 | 7,238歩 | 6,472歩 | ▲ |
| 70歳以上の1日あたりの歩数 | 男性 | 6,081歩 | 4,843歩 | ▲ |
| | 女性 | 5,092歩 | 4,799歩 | ▲ |
| 外出に積極的な60歳以上の人の割合 | 男性 | 66.7% | 62.1% | ○ |
| | 女性 | 65.4% | 71.0% | ○ |
| 地域活動等に参加している60歳以上の人の割合 | 男性 | 37.4% | 37.9% | △ |
| | 女性 | 42.2% | 42.3% | △ |

【身体活動・運動に関する指標の達成状況】<資料>健康さっぽろ21 最終評価報告書

高齢者の健康づくり

- 70歳以上の男女の1日あたりの歩数は減少しており、高齢者の閉じこもり予防や健康維持を図るため、地域活動等への参加などをきっかけとして、日常生活の中に運動を取り入れることが重要です。
- 要介護の原因ともなる「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」の認知度を高めることにより、骨や筋肉など、運動器の衰えの予防に取り組み人を増やすことが重要です。

| 指標 | 現状値 | 目標値 | |
|--------------------------------|-----|--------|--------|
| 外出に積極的な60歳以上の人の割合 | 男性 | 62.1% | 70% |
| | 女性 | 71.0% | 78% |
| 70歳以上の人の1日あたりの歩数 | 男性 | 4,634歩 | 6,000歩 |
| | 女性 | 4,799歩 | 6,000歩 |
| ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を知っている人の割合 | — | 80% | |

【高齢者の健康づくりの成果指標】

<資料>健康さっぽろ21(第二次) 基本要素ごとの取組の主な成果指標から抜粋

市民が健康づくりに親しむ身近な環境づくりに関する事業について

札幌市では、市民の健康づくりを進めるうえで、気軽にそして安全に取り組み始めるウォーキングを推奨しています。
 そしてウォーキングをきっかけに、身近な地域で日常的に健康づくりに取り組みたいことができるよう、町内会や老人会、自主活動グループなどでの継続的な健康づくり活動を支援しています。



ウォーキング実践指導ボランティア研修

- 各区分から受講生を募り年1回全市単位の研修を開催しています。
- 平成19年から開始
- 延べ受講者数 431人
- 「ウォーキング行事におけるリーダー大会の役割」「ウォーキングに効果的なストレッチ」などを学び、市民交流ウォーキング大会の企画・運営を体験します。
- 市民交流ウォーキング大会の体験を生かして、身近な地域でウォーキングを広めていただくことを目的としています。

市民交流ウォーキング大会

- 毎年開催区を決め全市から約300名が集まり、体力に応じたコースを歩きます。
- 平成20年から開始
- 延べ参加者数 1,954人
- ウォーキング実践指導ボランティア研修受講者を中心とした市民ボランティアが運営します。
- 楽しく歩くことで、日常的に運動を継続するきっかけとなっています。



平成26年5月に開催した市民交流ウォーキング大会の様子

ウォーキング推進キャンペーン事業

- 若い年代から高齢者まで幅広い年齢層が気軽に取り組み始めるウォーキングを推進し、運動習慣定着を目指しています。
- 平成24～26年度（札幌市交通局と共同実施（平成25・26年度））



市民・企業と協働で作成したウォーキングマップ

ウォーキングマップ作成ワークショップ



地下鉄車両へのポスター掲示



地下鉄階段に健康メッセージとカロリーーの表示

健康づくりサポーター等派遣事業

- 健康づくりに取り組むグループや町内会に対して、健康運動指導士や歯科衛生士等の健康づくりの専門家を派遣し、住民主体の健康づくりの継続と活性化を目指しています。
- 平成24年度から開始
- 平成26年度末の健康づくりサポーター登録人数 45人

派遣実績

| 年度 | 派遣回数 | 参加延人数 | 1回平均参加人数 |
|-----|------|--------|----------|
| H24 | 30回 | 747人 | 25人 |
| H25 | 64回 | 2,114人 | 33人 |
| H26 | 69回 | 2,982人 | 43人 |

○派遣先の内訳（平成26年度）

| | |
|-------------------------|-----|
| 町内会関係（厚別、東区、女性部、区民5） | 15回 |
| 健康づくり自主活動グループ | 8回 |
| 子育てサークル | 2回 |
| その他（食通、老人クラブ、患者会等） | 4回 |
| 老人福祉センター活動員と歩くサークルメンバー等 | 4回 |

< 正誤表 >

正誤表

資料に以下の間違いがありました。お詫びして訂正いたします。

テーマ①「市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

| ページ | 位置 | 誤 | 正 |
|-----|---|--|---|
| 5 | 「市民の健康寿命」 右下の青色の枠内 札幌市の健康寿命の平均寿命との 差を示した数値 | 平均寿命との差 男性 9.13 年 女性 12.68 年 | 平均寿命との差 男性 10.24 年 女性 13.27 年 |

2. 市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり

ワークショップにおける議論のテーマ

「市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり」

ワークショップにおける議論のテーマの選定理由

札幌市の特色あるスポーツ文化を積極的に推進するため、「札幌市スポーツ推進計画」では、「四季を通して、誰もが気軽にスポーツにふれられる環境をつくる」という方針のもと、市民がウィンタースポーツを楽しむ環境づくりを目指し、平成34年度におけるウィンタースポーツの実施率の目標値を25%としています。

ウィンタースポーツ実施率が低迷（平成26年度は12.6%）している中、市民の皆さんが子どもの頃からウィンタースポーツに親しみ、生涯スポーツとして気軽に楽しむために、札幌市の施策の課題や、力を入れて取り組む方向性を市民目線で考えていただくため、ワークショップにおける論点を「市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり」としました。



ワークショップの進め方（予定）

■ 第1回ワークショップ（8月30日（日））

目的：「札幌市の取組を知ろう」

説明／札幌市における行政評価の取組や市民参加ワークショップの位置づけについて

説明／ワークショップの進め方について

説明／テーマに関しての札幌市の取組について
ワークショップ／「質問で理解を深めよう」
質問タイム

■ 第2回ワークショップ（9月12日（土））

目的：「札幌市の取組を市民目線で評価しよう」

ワークショップ／「市民目線から見た現状と課題」

ワークショップ／「市民目線で評価する良い点、問題点」

ワークショップ／「他のグループの話を聞いてみよう」

ワークショップ／「グループ意見を見直してみよう」

■ 第3回ワークショップ（9月26日（土））

目的：「改善の提案などを評価シートにまとめよう」

ワークショップ／「前回のワークショップの振り返り」

ワークショップ／「市民目線で提案する改善点、市民の役割」

ワークショップ／「行政評価シートにまとめよう」

行政評価の結果発表

札幌市におけるスポーツの施策体系について



札幌市スポーツ推進計画は、札幌市のまちづくりの基本指針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン※」の個別計画に位置づけられています。

※札幌市まちづくり戦略ビジョン
 札幌市を取り巻く社会経済情勢の大きな変化に対応するための新たなまちづくりの指針であり、札幌市のまちづくりの計画体系では最上位に位置づけられる「総合計画」です。計画期間は平成25年度から平成34年度までの10年間です。

個別の施策・事業に反映

札幌市スポーツ推進計画について

札幌市では、平成26年2月、「札幌市スポーツ推進計画」を策定しました。この計画では、札幌市民が、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、それぞれの関心、適性に応じてスポーツに参画する環境を整備し、スポーツの力をもって、青少年の健全育成、生涯を通じた健康の維持、地域コミュニティの再生、そして札幌の活力の創造に寄与することを目的としています。

基本理念として「スポーツ元氣都市さっぽろ 一スポーツを通じて、市民が、地域が、さっぽろが元氣にー」をかかげ、3つの目標と6つの方針、15の施策により構成しています。

前計画である札幌市スポーツ振興計画の数値指標の達成状況や課題もふまえ、スポーツ元氣都市さっぽろを表現するために、3つの目標ごとに具体的な成果指標を設定しています。

| 3つの目標 | 6つの方針 | 15の施策 |
|-----------------------------|--|--|
| 目標1 スポーツを愛する市民、職人が活躍する | 1 市民がスポーツを愛するよう、スポーツの魅力を伝える活動を推進します 2 アインスタースポーツを愛する市民の増加を図ります 3 トップレベルのアスリートと市民との交流を図ります 4 市民がスポーツを愛するよう、スポーツの魅力を伝える活動を推進します | 1 施設利用やサービスの提供を充実させます 2 アインスタースポーツを愛する市民の増加を図ります 3 トップレベルのアスリートと市民との交流を図ります 4 市民がスポーツを愛するよう、スポーツの魅力を伝える活動を推進します |
| 目標2 スポーツを通じて、地域が元氣になる | 1 スポーツを通じて、人々のつながりを強めます 2 スポーツを通じて、人々のつながりを強めます 3 スポーツを通じて、人々のつながりを強めます | 5 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 6 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 7 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します |
| 目標3 スポーツを通じて「さっぽろ」が元氣になる | 1 市民がスポーツを愛するよう、スポーツの魅力を伝える活動を推進します 2 アインスタースポーツを愛する市民の増加を図ります 3 トップレベルのアスリートと市民との交流を図ります 4 市民がスポーツを愛するよう、スポーツの魅力を伝える活動を推進します | 8 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 9 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 10 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 11 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 12 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 13 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 14 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します 15 障がい者がスポーツを楽しむ機会をつくり出します |

【スポーツ推進計画の施策体系】

| 成果指標 | 設定の考え方 | 数値指標 | 目標値 |
|----------------------|------------------------|---------|---------|
| スポーツ参加率 | 市民のスポーツ参加状況を指標 | 41.7% | 65.0% |
| アインスタースポーツ参加率 | 市民のスポーツ参加状況を指標 | 11.7% | 25.0% |
| スポーツを通じて「さっぽろ」が元氣になる | 地域におけるスポーツの魅力を伝える活動を指標 | 31,522人 | 50,000人 |
| スポーツを通じて「さっぽろ」が元氣になる | 地域におけるスポーツの魅力を伝える活動を指標 | — | 10大会 |

【スポーツ推進計画の成果指標】

〇スポーツ基本法について

昭和36年の「スポーツ振興法」制定から60年、スポーツを行う目的の多様化とともに、地域におけるスポーツクラブの成長や、競技技術の向上、プロスポーツの発展、スポーツによる国際交流や貢献の活発化など、スポーツを巡る状況が大きく変化したことをふまえ、スポーツの推進のための基本的な法律として、平成23年6月に公布、8月に施行されました。

同法では「スポーツを享受することの権利」「青少年の健全育成とスポーツの推進」「地域のスポーツの場と交流の推進」「健康維持と安全確保」「障がい者スポーツの推進」「競技力の向上」「国際交流の推進」「公平・公正性の確保」という8つの基本理念を掲げるとともに、スポーツに関する施策の策定及び実施に係る国、地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力に関する規定及びスポーツに関する施策の基本となる事項が定められています。

同法の附則において、スポーツに関する施策を総合的に推進するための行政組織の在り方を検討することとされ、その結果、平成27年10月から文部科学省の外局として「スポーツ庁」が設置されることとなりました。

〇スポーツ基本計画について

スポーツ基本法第9条の規定により、「スポーツに関する施策の総合的・計画的な推進を図る」ため、平成24年3月に策定されました。

「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を送ることができ、年齢や性別、障がい等を問わず、広く人々が、関心、適性等に順じてスポーツに参画することができ、環境を整備すること」を基本的な政策課題とし、「子どもたちのスポーツ機会の充実」「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」「住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」「国際競技力の向上に向けた人材の育成やスポーツ環境の整備」「国際競技大会の招致・開催等を通じた国際貢献」「スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上」「トップアスリートと地域スポーツの連携による好成績の創出」という7つの政策課題を掲げ、スポーツの推進に取り組むこととしてしています。

ウィンタースポーツを取り巻く札幌市の現状と課題

スポーツ実施率の状況

| 全員に質問(返-選択) | H15 (%) | H17 (%) | H18 (%) | H20 (%) | H21 (%) | H22 (%) | H23 (%) | H24 (%) | H25 (%) | H26 (%) |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 源3回以上…① | 11.8 | 12.4 | 11.2 | 12.4 | 14.1 | 15.1 | 14.2 | 16.1 | 19.8 | 17.5 |
| 源1~2回程度…② | 18.9 | 18.1 | 19.3 | 20.7 | 19.1 | 20.1 | 21.3 | 22.4 | 21.4 | 24.6 |
| 源1~3回程度…③ | 21.6 | 21.8 | 22.9 | 22.8 | 22.0 | 20.6 | 20.1 | 21.3 | 20.4 | 22.0 |
| 源1回未満 | 20.3 | 19.3 | 18.6 | 19.9 | 15.7 | 16.2 | 17.1 | 14.9 | 14.1 | 13.2 |
| 未実施 | 23.5 | 24.6 | 25.5 | 20.9 | 26.5 | 26.5 | 24.0 | 18.3 | 15.2 | 15.2 |
| 無回答 | 3.8 | 3.7 | 2.4 | 3.7 | 2.7 | 2.9 | 3.3 | 9.0 | 9.1 | 6.6 |
| スポーツ実施率(①+②) | 30.7 | 30.5 | 30.5 | 33.1 | 33.2 | 35.2 | 35.5 | 38.5 | 41.2 | 45.0 |

【スポーツ実施率の推移】 <資料> 札幌市指標達成度調査 無作為抽出の成人市民にアンケート 平成26年度は5,000人に郵送、回収数2,002
平成16年度は調査未実施

●平成15年3月に策定した札幌市スポーツ振興計画では、数値目標として、成人のスポーツ実施率50%をできるだけ早期に達成することでしたが、計画終了の平成24年度における数値は41.2%に留まりました。

●成人のスポーツ実施率は微増しており、60代や70代の実施率は高い傾向にありますが、20代から50代にかけての実施率が低迷しています。今後は、高齢世代はもちろんのこと、若い世代がスポーツを楽しむことのできる環境を整えていくことが課題と言えます。

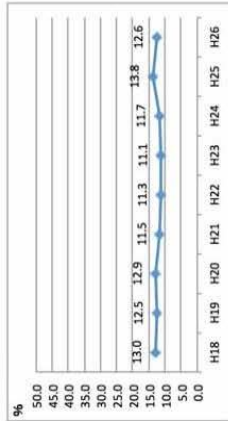
学校教育におけるスキー授業の取組

●学校教育においても、スキー授業を実施する学校数は、平成20年度まで減少を続けていましたが、指導者不足に対応するため競技団体と連携してインストラクターを派遣したり、家庭の経済的負担を軽減するためにスキー用具のリサイクルを行うことにより、平成21年度からは、授業実施校数は増加に転じました。

ウィンタースポーツ実施率の状況

●ウィンタースポーツは、第11回オリンピック冬季競技大会の開催をきっかけとして、雪国札幌の文化のひとつとして、国内外に広く認知されています。札幌ならではのライフスタイルであるウィンタースポーツの魅力を体感したり、その魅力を発信する人を増やすことは、札幌の都市ブランドを高めることとなり、市民の誇りにつながっていきます。

●しかし、その一方で、市民のウィンタースポーツ実施率(成人のうち、年に1回以上ウィンタースポーツを実施した人の割合)は年々減少しており、平成26年度の調査では12.6%となっております。

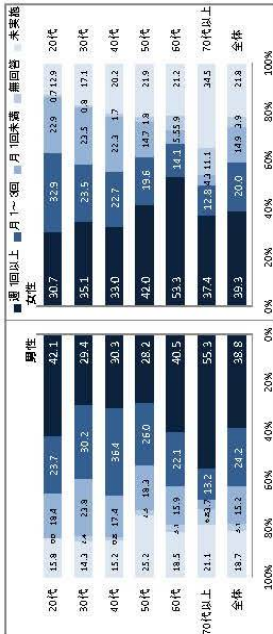


【ウィンタースポーツ実施率の推移】

<資料> 札幌市指標達成度調査

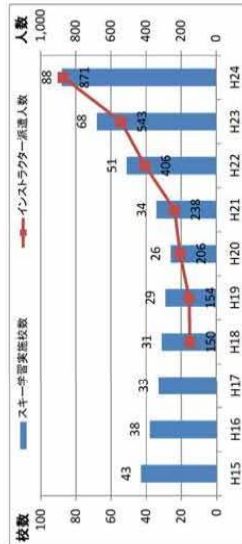
課題のまとめと今後の方向性

●札幌のまちはウィンタースポーツをする上で恵まれた環境にありますが、ウィンタースポーツ実施率は低迷しています。
●今後も、子どもの頃からウィンタースポーツに親しむ機会を増やすなどし、札幌の文化として、ウィンタースポーツ実施率の向上を図っていく必要があります。



【年齢別・男女別のスポーツ実施率(平成23年度)】

<資料> 札幌市指標達成度調査 無作為抽出の成人の5,000人にアンケート郵送、回収数2,227
注: 年齢・性別が未記入の回答を除いているため、上記のスポーツ実施率は異なる結果となります。



【中学校のスキー授業実施校数とインストラクター派遣人数の推移】

<資料> 札幌市観光文化局スポーツ部

市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくりに関する事業について

ノルディックスキーク札幌大会記念ウィンタースポーツ活性化事業

- ◆ **事業の目的**
札幌らしいスポーツ文化であるウィンタースポーツの日常化を目指し、市民の誰もがウィンタースポーツに親しむことができるよう体験機会の充実を図ります。
- ◆ **市立学校ウィンタースポーツ体験支援事業**
●市立中学校・高等学校スキー学習支援事業
中学校・高等学校が実施するスキー学習にインストラクターを派遣しました。(財)札幌スキー連盟及びスキー場を経営する11社の協力を得て、教育委員会との共催で実施しました。
- 歩くスキー出前授業
クロスカントリースキー一普及を目的として、小學校にインストラクターを派遣しました。



歩くスキー出前授業

- ◆ **ウィンタースポーツ活性化推進協議会の開催**
●ウィンタースポーツの活性化施策のあり方をテーマに、有識者による協議会を開催しました。
- モデル事業の実施
①「ようこそスキセン事業」
モデル校である北園小学校に、スケート、カーリングのアイスリフト、指導者を派遣しました。
②「大倉山ジャンプ競技場、ウインタースポーツミュージアム探検ツアー」
サマージャンプ公式練習の観戦、オリンピックによる講話を合わせたイベントを開催しました。
③「札幌の冬・ウインタースポーツの魅力発信記事」の制作(広報誌)
④「札幌の冬・ウインタースポーツPR映像制作」

- ◆ **雪まつり期間の歩くスキー体験事業**
●第66回さっぽろ雪まつり大通西11丁目会場に歩くスキーの無料体験コースを設け、用具貸出及びスキー体験を実施しました。



雪まつり会場での歩くスキー体験

- ◆ **ウインタースポーツキャラバン事業**
●公園などの身近な場所でも、子どもや親子を対象として歩くスキー、チューブ滑り、イグルー作り、雪あそびなどの出前型体験会を開催しています。

地域スポーツマスター活用事業 ※H27年度から「地域スポーツ指導者活用事業」に名称変更

- ◆ **事業の目的**
中学校のスキー学習に地域住民を指導者として派遣することで、中学校のスキー学習実施率の維持をはかります。また、高齢世代を含む地域の人材を活用することで、地域住民の活躍の場づくりや、地域と学校との連携、地域コミュニティの活性化に貢献します。
- 平成26年度事業実績
ボランティア指導者としての人材リスト登録者数 18名
モデル校として位置づけた中学校5校(平岸中、南が丘中、山鼻中、手稲東中、北野中)に派遣
派遣回数 36回、派遣人数延べ 80人
- 今後の方向性
平成27年度からは高等学校も事業対象とし、スキー学習に限らず体育的活動全般にボランティア指導者の活用場面を拡大します(「部活動」を除く)。人材の発掘及びボランティア指導者との連絡・調整は、本事業実施校にて行います。

カーリング普及事業

- ◆ **事業の目的**
平成24年9月、新たなウインタースポーツを楽しむ機会を提供するため、豊平区に通年型のカーリング場である「どうぎんカーリングスタジアム」をオープンしました。札幌市では、これを機に多くの市民がこの施設を活用し、カーリングの楽しさ、魅力を実感してもらうため、技術指導員の配置や、子ども向けのカーリング体験を行っています。
- ◆ **ふらっと体験(初心者向けカーリング技術指導)**
●カーリング場に常駐指導員を配置し、初心者に対し、無料の技術指導を実施しています。
●平成26年度利用実績 1,097人(実施回数 233回)
- ◆ **子ども向け指導プログラム**
●放課後に子どもを対象に一部のシートを開放し、カーリング場に気軽に足を運ぶことで氷に親しめる体制を整えるほか、子ども向けの体験会を実施しています。
●平成26年度利用実績 679人(実施回数 159回)



子ども向け指導プログラム

Ⅶ. 各区での開催結果概要パンフレットの掲示

3回のワークショップの流れや議論の結果を市民にわかりやすく伝えるための開催結果概要パンフレットを作成しました。各区役所のロビーなどの掲示スペースにおいて、ポスター掲示とともに概要版パンフレットを配置し、より広い市民に行政評価の市民参加の取組が伝わるようにしました。

平成27年度

札幌市行政評価



市民参加ワークショップ

のご報告

札幌市では、行政評価の外部評価として、市民目線、市民感覚をふまえる必要性が高いテーマについて、市民参加ワークショップを実施しています。開催にあたっては、無作為抽出の市民3,000名に案内を送付し、応募のあった方から、41名に参加いただきました。ワークショップのテーマは次の2つです。開催結果概要パンフレットをぜひご覧ください。

8月～9月に実施しました!



テーマ 1

市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

テーマ 2

市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり



**ご自由に
お取りください**



市民参加ワークショップのようす

札幌市 市長政策室 改革推進部 推進課



さっぽろ市
04-AD5-15-1651
27-4-350

<パンフを設置したポスターの状況>

テーマ① 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

テーマに関連したその他の提案

- ・ 学校のみでなく、廃校や空き施設もスポーツの場として活用する
- ・ 健康づくりセンターの運営は定員や料金を民間のマーケティング手法に学び、1回無料券を市民に配布するなど、すそ野を広げる工夫
- ・ 先進的な他市町村や他国へ学び、札幌は健康寿命の長、まちという「売り」をつくる
- ・ 広域連携（ほろにもスポーツを築く）市民の取組やコラムの紹介されると良い
- ・ 健康づくりに関する情報提供の方法（工夫と）リエーションを（タウン誌、WEB、SNS、アプリ、ラジオなどを活用）登録制で興味分野や内容が強く（仕組みづくり）
- ・ 身近な場所の健康づくりスポット（バス停や小さな公園の健康遊具など）を増やす
- ・ 社員や地域向けに健康づくりに取り組む企業（メタリタス）がある仕組み（認定など）を整える
- ・ 様々な世代、ライフスタイルの方が集まり健康や運動について話す今日のような場を！
- ・ 市民1人1人が持つ札幌市発行の「健康手帳」をつくり、スポーツイベント等のスケジュール管理、健康の目安等を管理する。企業コラボイベント集めも！

テーマに関連した協働の視点からの市民の役割

- ・ 色々な世代の人がスポーツ推進委員になる
- ・ 身近な人に話すなど、スポーツの楽しさを伝え、広める
- ・ 健康づくりサポーター制度をもっと活用する
- ・ 半径500mくらいで誰でも訪れ参加できるコミュニティ（区民センター、地区センター、地区会館など）の活用も

テーマ② 市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

テーマに関連したその他の提案

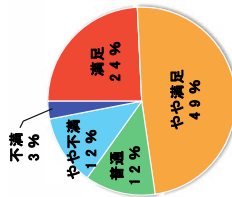
- ・ ウインタースポーツの祭典（札幌市民市民会社と連携し、オール札幌で展開していく）大きな大会の誘致で、市民の関心を高める
- ・ 冬遊州祭を充実させ、リアルタイムで発信していく。SNSを活用する
- ・ 大都市なので何をやっても多くの人が参加するポテンシャルがあるので、新しいことにとどんどんチャレンジしてほしい
- ・ 学校や公園（身近な公園、大通公園）などの公共施設の利活用を促進する
- ・ 雪中遊歩や冬のマラソン大会など、簡単にできて、楽しめる面白い行事の開催により、冬の健康づくりのためのスポーツへの参加を促進する

テーマに関連した協働の視点からの市民の役割

- ・ ボランティア指導者は将来的に地域で運営できるようにしたら良い
- ・ 行政が地域と学校の窓口となり、地域の高齢者が小、中学校の子どもたちと冬の遊びをする

参加者の感想

< 市民参加ワークショップの満足度 >



< 主な感想 >

- ・ 今回のワークショップで様々な情報や意見を聞くことができて、大変勉強になり、市の取組が身近に感じられた。
- ・ 市民の生活に密接な関係を持つテーマだったので、とても勉強になりました。
- ・ より多くの方が参加できるようにするためには、回数や機会を増やしてみたいと思います。
- ・ 事前にもう少し、施設情報の提供があると良かった。
- ・ 全体でのフォローワークがあっても良いのでは？

今後の取り組みに向けて

今回のワークショップで頂いたご意見は、今後、市の行政評価の取組の参考としていきます。また、報告書は平成27年12月頃に市のホームページに掲載予定です。なお、各回の資料や記録については、以下からダウンロードできます。

URL: <http://www.city.sapporo.jp/somu/hyokai/shimin/h27/index.html>

お問い合わせ

札幌市 市長政策室 改革推進部 推進課 電話: 011-211-2061



さっぽろ市
02-A03-15-1650
27-9-978

平成27年度 札幌市行政評価

市民参加ワークショップ

SAPP
〜RO



開催結果概要

「スポーツや健康づくり」「ウインタースポーツ」をテーマに、「行政評価市民参加ワークショップ」を開催しました！



市民参加ワークショップの様子

札幌市では、行政評価の取組として「市民参加の取組」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」による外部評価を行っています。

「市民参加の取組」として、市民目録、市民感覚をふまえる必要性が高いテーマについて、市民の皆さまが意見を交換する「市民参加ワークショップ」を実施しました。

開催にあたっては、無作為抽出（くじ引きのような方法）により20歳以上の市民3,000名に案内を送付しました。応募のあった方から、41名に参加いただきました。

ワークショップのテーマは次の2つです。

- テーマ① 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり
- テーマ② 市民がウインタースポーツにもっと親しむ環境づくり

市民参加ワークショップの進め方

時間: 9:30～12:30
場所: エルプラザ 大研修室

第1回 8月30日(日) 第2回 9月12日(土) 第3回 9月26日(土)
「札幌市の取組を知ろう」 「札幌市の取組を市民目録」 「改善の提案などを評価シートにまとめよう」

| 第1回 | 第2回 | 第3回 |
|---|---|--|
| 札幌市における事業評価とワークショップの位置づけの説明 札幌市の取組、これまでの札幌市の取組、施策の説明 ワークショップ「質問で理解を深めよう」 出された質問に対して市の担当からの説明 | 前回のワークショップでの回答の補足 ワークショップ「テーマに関して市民目録から見た現状と課題」 ワークショップ「市民目録で評価する改善点、市民の役割」 ワークショップ「行政評価シートにまとめよう」 グループ発表 | 前回のワークショップの振り返り ワークショップ「市民目録で評価する改善点、市民の役割」 ワークショップ「行政評価シートにまとめよう」 グループ発表 |

ワークシヨップのまとめ

テーマ①は4グループ、テーマ②は2グループに分かれて話し合いを行いました。

テーマ① 市民がスポーツや健康づくりに親しむ身近な環境づくり

市民目録から見た現状と課題

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● イベントや大会の情報が行き通っていない ・ イベントや講座など、情報をどこで得られるか把握しにくいと参加できない ・ スポーツ大会などのお知らせがたまたまの人に届かない ・ 健康づくりに関する情報の受け手が受けとれずやりやすい工夫があるか ・ 町内会等小さな単位でのスポーツイベント情報を多くの住民が知らない ● 施設を利用する上でのハードルがある ・ スポーツ施設に行くのに利用料や交通費がかかる ・ 市民がスポーツをする上での支えとなる施設・情報提供が必要 ・ 健康づくりセンターをもっと利用しやすい ● 市民の意識が足りない ・ 運動できる施設や環境がある反面、運動する機会が少ない ・ 「スポーツイベント」は気軽さがなく、市民にとってなかなか自分ごとにならない ・ 特に若い人には「健康づくり」という意識があまり無い ● 運動する仲間がいると良い ・ 1人では運動しにくいいため、一緒に参加できる仲間がいるとよい ・ 健康づくりの取組を行っている団体が継続できるような支援が必要 ● 運動していない、できない人へのアプローチが必要 ・ 運動していない人、できない人の理由に着目した支援が必要 ・ 運動していない人の掘り起こし策や病院からの予防的なアプローチも必要 ● 子どもが気軽に体を動かす環境が少ない ・ 公園で球技が不可など、近隣の子どもが遊べる場所が少なくなっている ・ 子育て世帯が「楽しく」「ポジティブに」運動していると実感できる機会づくりが大切 | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|--|---|

関連する事業

| | |
|---|---|
| <p>市から委嘱された地域でのスポーツイベントの企画、運営や支援指導を担当。平成27年8月現在の委員数は257人</p> <p>市が主催、共催するスポーツ大会や、体育協会やスポーツ少年団等の補助、週末プール子ども無料化事業への補助</p> <p>平日の夜間と土日祝日に、小中学校の体育施設を市民に開放。平成26年度の開放校数293校、利用者が130万人超</p> <p>町内会や体育協会の主催する地域のスポーツイベントに、オリンピック選手等のトップアスリートを派遣</p> <p>各区から受講者を募り年1回全市単位の研修を開催。平成19年から開始し、延べ受講者数431人</p> <p>毎年開催区を決め全市から約300名が集まり、体力に合ったコースを歩く、ポランテア研修受講者を中心に運営</p> <p>市民と協働でのウォーキングマップの作成、地下鉄車両にポランテア表示、地味研修段に健康メッセージとカラー表示など</p> <p>健康づくりを取り組むグループや町内会に、健康運動指導士や歯科衛生士等の専門家を派遣。平成26年度派遣回数68回。</p> | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

関連する事業

| | |
|---|---|
| <p>市から委嘱された地域でのスポーツイベントの企画、運営や支援指導を担当。平成27年8月現在の委員数は257人</p> <p>市が主催、共催するスポーツ大会や、体育協会やスポーツ少年団等の補助、週末プール子ども無料化事業への補助</p> <p>平日の夜間と土日祝日に、小中学校の体育施設を市民に開放。平成26年度の開放校数293校、利用者が130万人超</p> <p>町内会や体育協会の主催する地域のスポーツイベントに、オリンピック選手等のトップアスリートを派遣</p> <p>各区から受講者を募り年1回全市単位の研修を開催。平成19年から開始し、延べ受講者数431人</p> <p>毎年開催区を決め全市から約300名が集まり、体力に合ったコースを歩く、ポランテア研修受講者を中心に運営</p> <p>市民と協働でのウォーキングマップの作成、地下鉄車両にポランテア表示、地味研修段に健康メッセージとカラー表示など</p> <p>健康づくりを取り組むグループや町内会に、健康運動指導士や歯科衛生士等の専門家を派遣。平成26年度派遣回数68回。</p> | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

関連する事業

| | |
|---|---|
| <p>市から委嘱された地域でのスポーツイベントの企画、運営や支援指導を担当。平成27年8月現在の委員数は257人</p> <p>市が主催、共催するスポーツ大会や、体育協会やスポーツ少年団等の補助、週末プール子ども無料化事業への補助</p> <p>平日の夜間と土日祝日に、小中学校の体育施設を市民に開放。平成26年度の開放校数293校、利用者が130万人超</p> <p>町内会や体育協会の主催する地域のスポーツイベントに、オリンピック選手等のトップアスリートを派遣</p> <p>各区から受講者を募り年1回全市単位の研修を開催。平成19年から開始し、延べ受講者数431人</p> <p>毎年開催区を決め全市から約300名が集まり、体力に合ったコースを歩く、ポランテア研修受講者を中心に運営</p> <p>市民と協働でのウォーキングマップの作成、地下鉄車両にポランテア表示、地味研修段に健康メッセージとカラー表示など</p> <p>健康づくりを取り組むグループや町内会に、健康運動指導士や歯科衛生士等の専門家を派遣。平成26年度派遣回数68回。</p> | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

テーマ② 市民がウィンタースポーツにもっと親しむ環境づくり

市民目録から見た現状と課題

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 雪遊びを含め気軽にウィンタースポーツをする環境の不足 ・ 多くの人、多世代が楽しめるウィンタースポーツの種類が不足 ・ 身近な施設や空間の不足 ・ 雪遊びや雪かきなど、遊びを活用するポイントが大切 ・ 冬に体を動かすモチベーションが不足している ● お金がかかると ・ 施設の利用料金や交通費、道具が高い ● 取組のPRや指導者が不足 ・ 取組のPRが不足している ・ 指導者が不足しており、基礎の技術が習得できず、楽しめない | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

関連する事業

| | |
|---|---|
| <p>小・中・高校のスキー学習にインストラクターを派遣。雪まつり会場での歩くスキー体験、公園等での雪遊び出前体験会など</p> <p>中学校のスキー学習に高輪世代を含む地域住民を指導者として派遣。毛沢江5例に平成26年度派遣回数36回、延80人</p> <p>カーリング場の常駐指導員が初心者に技術指導。平成26年度利用者1,097人。子ども向け指導プログラムも実施</p> | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

関連する事業

| | |
|---|---|
| <p>小・中・高校のスキー学習にインストラクターを派遣。雪まつり会場での歩くスキー体験、公園等での雪遊び出前体験会など</p> <p>中学校のスキー学習に高輪世代を含む地域住民を指導者として派遣。毛沢江5例に平成26年度派遣回数36回、延80人</p> <p>カーリング場の常駐指導員が初心者に技術指導。平成26年度利用者1,097人。子ども向け指導プログラムも実施</p> | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

関連する事業

| | |
|---|---|
| <p>小・中・高校のスキー学習にインストラクターを派遣。雪まつり会場での歩くスキー体験、公園等での雪遊び出前体験会など</p> <p>中学校のスキー学習に高輪世代を含む地域住民を指導者として派遣。毛沢江5例に平成26年度派遣回数36回、延80人</p> <p>カーリング場の常駐指導員が初心者に技術指導。平成26年度利用者1,097人。子ども向け指導プログラムも実施</p> | <p>市民目録で評価する札幌市の取組の良い点、課題点</p> <p>事業の評価：良い点</p> <p>事業への改善提案</p> |
|---|---|

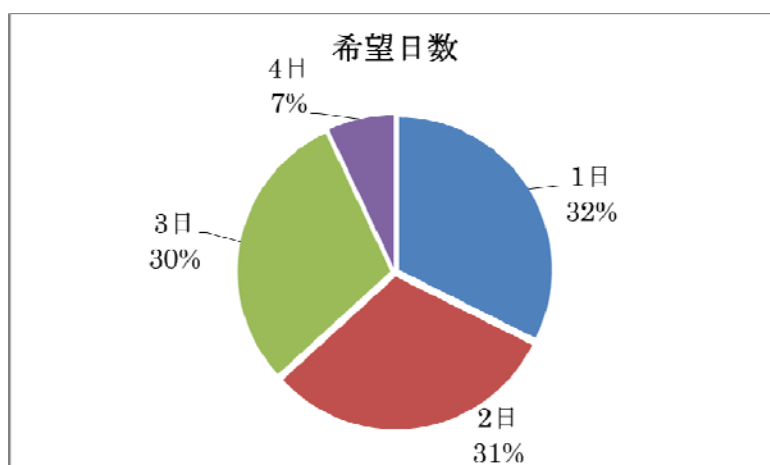
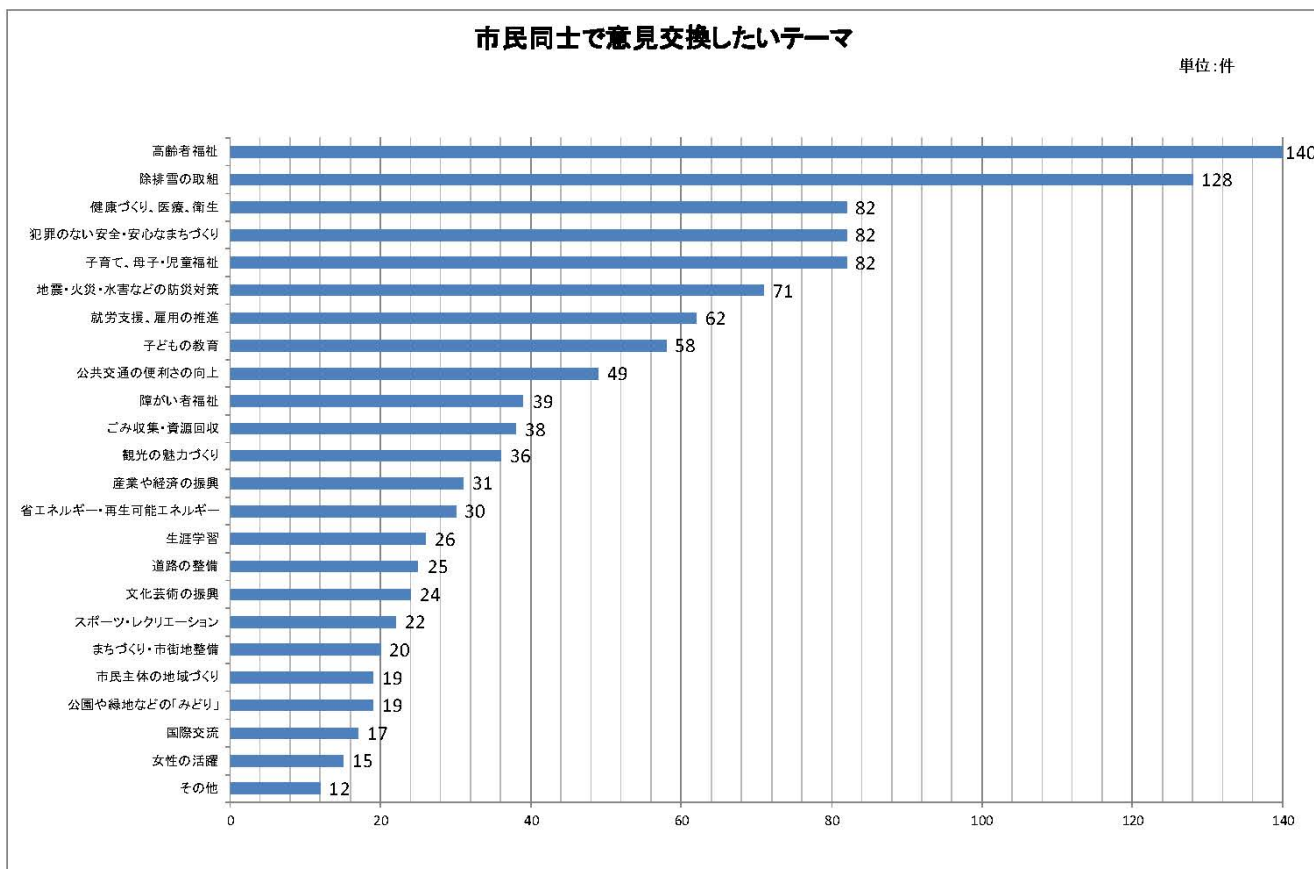
<参考資料>

●平成 27 年度札幌市行政評価「市民参加ワークショップ」に関するアンケート集計結果

参加者募集案内を送った際に、ワークショップに参加できない方を対象にアンケートで「市民の皆様同士で意見交換したいテーマについて」、「ワークショップの希望日数について」をお聞きしました。

◆調査の概要◆

- ・目的：「市民参加ワークショップ」に参加できない方にどのようなワークショップであれば参加可能かを把握するために実施
- ・調査対象と方法：無作為抽出の 20 歳以上の札幌市民 3,000 人
- ・方法：調査票を「市民参加ワークショップ」の参加案内に同封し郵送、返信用封筒で回収
- ・回収数：406 通（回収率：13.7%）



SAPPORO

平成 27 年度 札幌市行政評価 市民参加の取組（ワークショップ） 報告書

発行 札幌市市長政策室 改革推進部
〒060 - 8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
電話 011 - 211 - 2061
URL <http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/>



さっぽろ市
01-A03-15-1833
27-1-129